

【緑地を楽しむ本】

『この世でいちばんすばらしい馬』

チェン・ジャンホン 作・絵 徳間書店



今年、うま年。

私は馬が好きですが、実際に近くに行くとその優しい目にホッとしつつも、その大きさに畏怖の念を抱きます。この本に描かれている馬

は、その「大きさ」が表現されているように感じます。

むかしの中国のおはなし。絵を描くのが大好きな少年、ハン・ガン。でも家が貧しいため、絵を描く道具が買えません。食堂の配達等をして、両親を助けていました。ある日、有名な画家の家に配達に行き、その帰り際、裏につないであった馬があまりにりっぱだったので、地面に絵を描き始めました。

それを画家の主が気づき、つぎの日から絵を描くことを許されます。

やがて宮廷の絵師になるための学校へも行き始めますが、ハン・ガンが描くのは馬の絵

ばかり。そんなハン・ガンのところに、ある日ひとりの武将が訪ねてきます。「おまえの描く馬は本物よりすばらしい、ときいた。

生きて絵から飛び出す、というではないか。

この世でいちばん気性がはげしく、勇敢で力の強い馬を一頭、描いてくれないか。」と頼まれ、描きます。しかし、馬は動きだしません。失敗作だから、燃やしてしまうのがいいでしょうと火にくべたとたん、炎のなかからみごとな馬が飛びだしてきます。

雪舟のネズミのようですが、広～い平原のある中国なら、やはり馬がお似合いでしょうか。

このおはなしは創作ですが、ハン・ガン（韓幹）という画家は8世紀の中国に実在し、パリ・セルニユスキ美術館蔵の馬の絵の写真が紹介されています。

ちなみにこの本の原題は「Le cheval magique de Han Gan」。直訳すると「ハン・ガンの魔法の馬」でしょうか。

(遠藤)